

夢 塾 だ よ り

～ 読 書 の 秋 ～

(第 51 号) 令和 3 年 10 月 27 日



県内のコロナ新規感染者数が減少して今日は 12 名。依然として国内ワーストですが、このまま収束することを祈るばかりです。小笠原諸島付近の海底火山噴火により、県内海岸線のいたるところに軽石が流れ着き、

漁業関係者や観光レジャー産業等に深刻な影響を与え、大変な状況になっています。前代未聞の自然災害が思わぬところに発生しました。人類は自然の前では無力であることを改めて痛感させられます。自然開発ではなく、いかに自然と共存するかが人類の永遠の課題と言えます。人間も限られた地球の生命体の一員として、驕ることなく自然界に畏敬と感謝をもって暮らしていきたいものですね。

さて、一年の中では最も過ごしやすい季節になりました。朝の散歩でも心地よい風を感じます。昔から秋といえば色々たとえられてきました。私には「読書の秋」です。齢を重ねると本を読むにも「ハズキルーペ」が必要になりますが、私の右目の視力は 1.2。左が 0.4 です。右は老眼が進み、近くの文字は全く読めませんが、近視のおかげで左目は近くが見えるのです。

右眼で遠くを見て、左眼で近くを見るハイブリッドです。

読書についての著名人の言葉です。

「良き書物を読むことは、過去の最も優れた人達と会話をかわすようなものである」・・・デカルト。 「言葉が足りないのは本を読まないから。美しい言葉に触れ素敵な表現を自分の中にストックする。意思の疎通は言葉。」・・・美輪明宏

「青春の思い出といえば、図書館で友人もなく孤独でした。自分の十代の間に何ごとかがプラスになったかを考えてみると、いくら考えても図書館しかない」・・・

司馬遼太郎 「いったん本を開けば、そこに目的などありません。ただもう無心で、言葉の海に身をゆだねるだけです。ページの向こうに隠された未知の世界は私の抱える些細な事情などに関係なく歴然とそこに存在し、私を待ってくれます。・・・小川洋子

私はといえば、読書が嫌いでしたが、鈴木健二さんの本で変わりました。

「体力がある 30 代までは読書した人もそうでない人も差がないが、体力が落ちる 40 代頃からの差が歴然とする」 その本に出合った私は本を読むようになりました。「男が 20 代でやっておくべきこと」という本でした。